

私達は「田んぼダム」を見つめて 何を語っていくべきか？

～岩見沢市広域協定を通じて変化する岩見沢style～

November 28, 2024 農業・農村の多面的機能の持続的発揮に向けた全国シンポジウム



国営南利根別排水機場から公共下水道処理場を望む

Chapter . 1 「田んぼダム」を見つめて考える

斎藤 貴 視 (さいとう たかみ)
岩見沢市 農政部 農業基盤整備課長

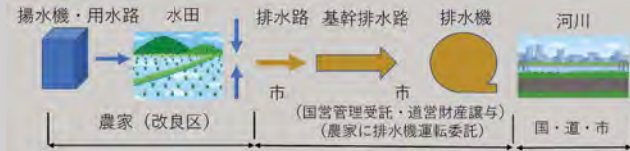
Chapter . 2 「田んぼダム」を見つめて行動する

高 道 政 秀 (たかみち まさひで)
北海土地改良区 総務部 総務課長

●私が市職員として感じていること → 内水排除の限界・流域治水の必要性

排水機場の設計条件が変化

- 昭和の頃、水田の湛水を許容(30cm, 24h)
- 現在では、湛水は許されない(転作の拡大)
- 施設更新が追いつかず、運転条件のみが厳格化
- 確率降雨量に対応する能力設定(それ以上の降雨の時は…)



ゲリラ豪雨が頻発



水田区域の市街地化が進行



2012年 (平成24年)

1962年 (昭和37年)

国土地理院航空写真データを加工して作成 (岩見沢市:斎藤)

圃場の排水性が向上



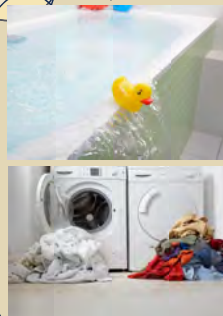
国営緊急農地再編事業「岩見沢北村地区」要請資料より

●私が市民として考えたこと → 自分自身が流域治水に参加すること

この取り組みと心構えを通じて、
自分の気持ちに大きな変化があった。



- ・「田んぼダム」を応援するだけいいのか？
- ・「内水排除」を担当するだけでいいのか？
- ・市民の自分が出来る取り組みとは？



・洪水時に家庭排水を減らす工夫

→ お風呂の水を溜めておく。

→ 洗濯を工夫。回数、水量設定

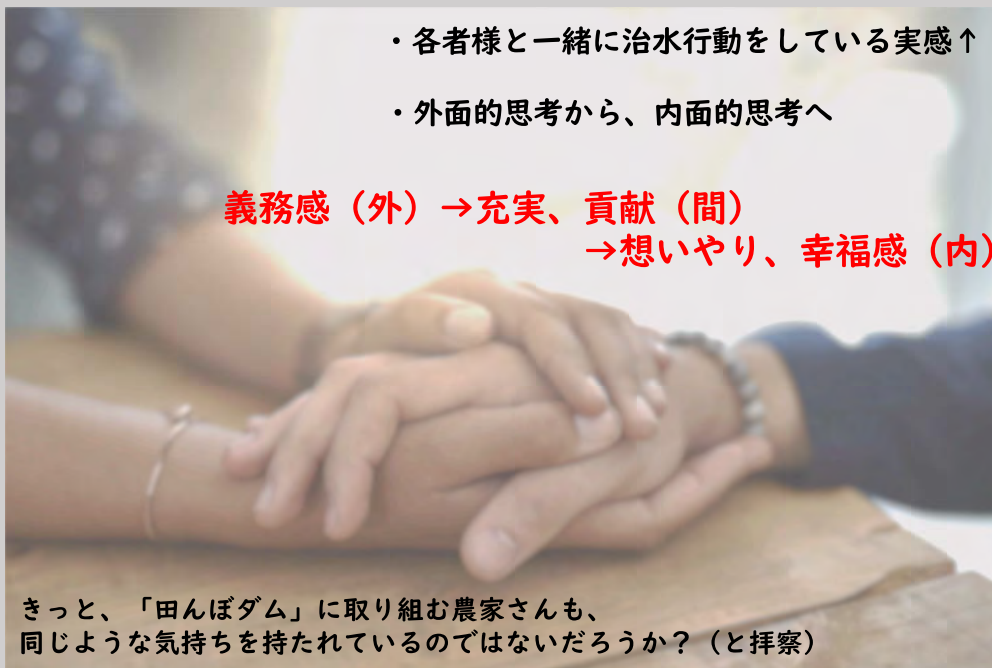
※レインガーデンは、家庭のダム

●私自身の大きな変化とは何か？

農家さんや治水担当機関への感謝と思いやりが大きくなった！

- ・各者様と一緒に治水行動をしている実感↑
- ・外面的思考から、内面的思考へ

義務感（外）→充実、貢献（間）
→思いやり、幸福感（内）



きっと、「田んぼダム」に取り組む農家さんも、
同じような気持ちを持たれているのではないだろうか？（と拝察）

●内的と外的の思考：「思いやり」と「義務」のお話

農村地域、市街地それぞれに暮らす人々の想いを理解しあうこと。
共感や感謝が広がり、配慮や思いやりにつながっていく。

一見同じ行動でも、
思考によって共感性と継続性には大きな違いが生じる。

「田んぼダム」にまつわる思考の例

内的

流域の消費者に配慮
思いやりから取組む

外的

責任転嫁されたくない
補助金を貰うために実施



※類似例 寄付金にまつわる思考

内的：自発、思いやり、貢献

外的：強制、嫌悪、義務

「田んぼダム」 農業のスタンス

流域の安全と環境を守りつつ、食料を供給する

流域の課題をふまえた、利他的な行動



農村地域の行動を鏡として、
流域治水の自分事化に気づききっかけになる。

日和見者を巻き込む配慮が必要
少数の反対者は必要（腸内細菌叢に相似）

世論はスタンスに共感し深く繋がることで、
強く永く賛成・応援してくれる。

回りまわって、農業の持続性確保につながる。

ミスリードすると

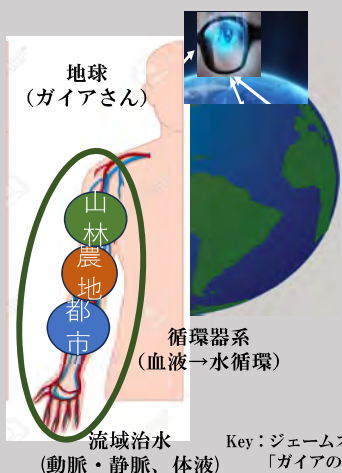
世論がスタンスに反感をもち、反対・苦情が噴出する。
（足を引っ張られてしまう。）

田んぼダムの価値（視点）

俯瞰的視点

（流域の一部）

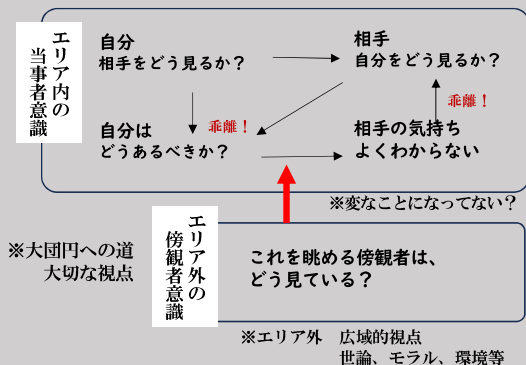
防災効果
多面的効果
排水事業者
（道義的責任）
農業関連事業
（説明責任）



鏡像的視点

（農村部と都市部）

農業者の取組 ↔ 市民の取組は？
農地から流出 ↔ 都市部の流出は？
都市部への感謝 ↔ 農村部への感謝



Key: ジャック・ラカン
「鏡像段階理論」

田んぼダムの価値

どうやって合意形成をしていくのか？

客観的事実に基づいた主観的感情による評価につながる。

主観的感情

共感 ↔ 反感
応援 ↔ 苦情
賛成 ↔ 反対

客観的事実（効果）

ロジック
データ（量的効果）

利他的な哲学・思想・信念を伝えるのも良いか？

これが、世論からの
評価の対象になる。

世論（流域内の住民）
の不安・苦しみ等を、
理解して寄り添う行動。

農業者（流域内の水排出事業者）
としての態度（スタンス）を明らかにすることが大切

世論から評価（応援）
されるのは、主観的感情
を震わせる共感性があるもの。

想いやり・配慮・エチケットなどの態度（スタンス）
どのように表明するのか？

田んぼダムの価値を考える

Key：岡田斗司夫
「評価経済社会」

田んぼダムを通じて

何をしたいのか？ 何を実現したいのか？

スタンスを表明 → 想いやりのベクトル化



世論はカスタマー（個人の集合体）
時代の厳しい波。 経済危機・環境破壊

個人として、正しい判断をして
時代に適応していく機運が活発に。

消費行動では、曖昧な「好き嫌い」から、明確な「賛成・反対」に変化。



→事業者の態度・スタンスで判断。
→エシカル消費 自分の意識を、
どれくらい理解してくれているかが鍵。
→消費者の自分事化のきっかけ

共感のハードルは高くても、賛成してくれると深く繋がる事が出来る。

田んぼダムの価値（評価）

自他のコミュニケーションを考える視点

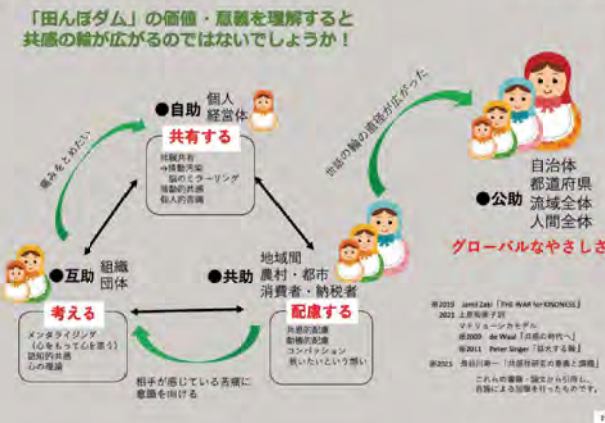
自分の信条に合致するか？

想いやり、善、徳
→ 安全、環境に配慮
他者の苦しみ・不安を和らげたい
他者の幸せを望む

●田んぼダム共感のヒント

自分や生活はどう変化するか？

他者の配慮に気づき共感する
自分のスタンス（賛成・反対）
を判断し行動する（応援・消費・取組み）



社会にどんな作用を与えるのか？

多様な取組みの相乗効果を発揮。
安全で心地よい暮らしに作用する。

態度に対する評価の仕方

様々な解釈

岩見沢市の田んぼダムの特徴

農家発信 （農村部・都市部の想いやり、防災施設に頼り切らない）

下流発信 （上下流の想いやり、災害の被災者から発信）

多 様 性 （地域の自主性尊重、外部交流を推進、変化を恐れない）



©2020 林弘樹

●岩見沢南地区の田んぼダム



- 低地の湛水被害リスクを、各水田で分散して対策。
R1～官民連携開発投資拡大プログラム（PRISM）内閣府
革新的防災・減災技術、農研機構他



岩見沢南地域資源保全協会の田んぼダム

岩見沢市広域協定に加盟：多面的活動組織

- ・対象面積：水田約350ha（地域：約1,100ha）
- ・実施期間：通水期 5月～8月
- ・連携機関：排水組合、樋門管理者、改良区、市
- ・開始時期：H29.3（通常総会で可決）
双葉地区の提案から進展。

例）350haの水田で10cm雨水貯留すると。
→ 35万tに相当！

金子排水機場 14 m³/s → 7 時間分

水田の堰高を調整→雨水を一時貯留。

ダムキーパーを導入→省力化・安全確保

水田水位センサー導入→地域自ら流域連携の行動

排水機場と揚水機とダムの治水連携→農家为中心。

降雨状況や、内水排除操作に連動。

H30年7月の大雨の際にも、地域で稼働。
今後も研究機関と連携して、運用する方針。

今後の展開・課題

市民参加型の田んぼダム

→オーナー制度、学びの場の創出

田んぼダムの付加価値向上

→田んぼダム米のPR、ふるさと納税等の展開推進

クロスコンプライアンスへの対応

→多機能型田んぼダムの研究・普及

田んぼダム×生物多様性×エネルギー×資源循環 等

※水田の多機能化と表現すべきか？

稲作の減少（転作等）

→水張面積の減少、畑地における雨水貯留機能

について議論・研究を進める必要あり。

→水田減少への対応・水田保護への対応を同時に検討すべき

